

食育パーパス

ベジメータ®の提供および日本人を対象としたエビデンスの社会実装を通じた健康づくり活動の一環として、「野菜摂取量の改善の見える化」の普及に取り組んでおります

▶取組のイメージ



農林水産省「野菜摂取量の見える化の取組」 農産局園芸作物課、農林水産政策研究所、消費・安全局消費者行政・食育課

食育の取組

自治体による食育活動



ベジメータ® Longevity Link Corporation, USA

PAT.: 生物学的組織におけるカロテノイドの非侵襲的測定(皮膚カロテノイド量測定を含む)

<p>正確</p> <p>野菜摂取量とは関係のない肌の色や血液の色の影響を受けないので正確に測定できます</p> <p>ベジメータ® 検体装置</p> <p>カロテノイド 100%</p>	<p>簡単</p> <p>指先にLED光をあてるだけ</p>	<p>迅速</p> <p>測定時間はわずか10秒</p> <p>検体装置</p>
---	---------------------------------------	---

ベジメータ®は、アメリカ農務省や国立健康・栄養研究所などの研究者による第三者評価において、「野菜・果物摂取量を客観的に評価できる装置」として科学的に裏付けられています。

その信頼性の高さから、野菜・果物摂取量評価装置の分野における国際的なグローバルスタンダード(世界標準)として、国内外で広く活用されています。



乳幼児健診から小中高生に対して継続的に測定を実施し、野菜摂取量の改善を評価
公立学校では、授業の一環(家庭科)として食育を実施



JA野菜直売所における食育活動



毎月1回の測定を継続することで、来店者の半数以上が推奨野菜摂取量350gを達成



※食行動の改善は、2週間以内にベジスコアの変化として確認できる高い精度を有します

食生活改善委員による地域食育活動



自治体、高校と連携し、生徒自身の野菜摂取量を把握すると共に栄養講和、調理実習を通して、野菜摂取の必要性と望ましい量を指導し、家庭での野菜摂取量増加につなげる



企業従業員への食育活動



産官学連携事業や健診事業における継続測定による野菜摂取増加を推進

